

美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



ゴマシジミ *Maculinea teleius* 撮影 廣田良二

目次 Contents

01 特集

特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」
市制 70 周年 美術博物館祭「紙のまち苫小牧」2018

- 02 企画展 歴史再発見～美々鹿肉缶詰工場展～
- 02 企画展 「風の生涯と『勇払』」から浮かび上がる工業都市の一起点
- 02 活動紹介 教育普及活動 無料観覧日「あみゅー秋のサンクスデー」開催
- 03 平成 30 年度事業記録
- 04 平成 30 年春季展示室の貸出し事業／職員紹介
- 05 企画展 「藤沢レオーStill Living」一木棒を立てることからはじまる「柱の物語」
- 05 特集展示 「安田葉 WIND BIRDS」がひらくミュージアムの新たな可能性
- 06 活動紹介 調査研究活動 鳥が集う出光カルチャーパーク
- 06 埋文センター活動報告／勇武津資料館通信
- 07 館長コラム／2019 年度展示会情報／展示室から／表紙の写真／編集後記

特 集

特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」 市制 70 周年 美術博物館祭「紙のまち苫小牧」2018



来場 5000 人記念セレモニー



浮世絵手摺り実演会①



浮世絵手摺り実演会②

日本人にとってなじみ深い歌川広重の名作浮世絵「東海道五拾三次」を版の異なる 2 種類の作品を対比しながら鑑賞する特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」は、平成 30 年 7 月 14 日（土）から 9 月 17 日（月・祝）までの会期で開催されました。本展は（公財）日動美術財団・日本美術商事株式会社が所蔵する作品を展示した、当館では初めての巡回企画展となりました。期間中に実施したアンケート結果では 9 割を超える来館者から「展示内容が良い」との回答を寄せていただきました。これは広重が描く情緒あふれる風景のみならず、江戸時代の旅や当時の風俗を本物の持つ力によって来館者に訴えかけたこと。さらには宿場町の大正・昭和初期の写真を展示したことにより、浮世絵が身近なものとして親しみが増したためだと捉えています。また、同時開催の特集展示「安田葉 WIND BIRDS」により多様な層が来館し、世代を問わず多くの方に充実感を感じていただくことに繋がったと考えます。9 月 6 日（木）に発生した胆振東部地震では、作品は無事であったものの停電により閉館を余儀なくされ、団体客のキャンセルが相次ぐなど一時的な落ち込みはありましたが、再開直後には市立東小学校 4 年 1 組の児童 36 人が 5,000 人目の入館者になるなど明るい話題もあり、最終的に開館以来最高の 6,000 人に迫る入館者に達しました。また、会期中の 7 月 27 日（金）から 29 日（日）まで実施した「美術博物

館祭 2018」の一環として東京から招聘した摺師の沼辺伸吉氏による「浮世絵手摺り実演会」などの一連の関連行事では、国内有数の伝統工芸士の技を間近で目にする事ができる貴重な機会となり、参加いただいた皆様の好評を博しました。

「美術博物館祭 2018 市制 70 周年 紙のまち苫小牧」は、王子製紙株式会社苫小牧工場、王子ネピア株式会社苫小牧工場、日本製紙株式会社北海道工場のご協力を得て、紙をテーマにした多角的な学びの場を創造する試みとなりました。艾沢詳子×千歳科学技術大学ライトアート工房による展示「Paper Trail - イメージの“回廊”へ」は、常設展示室に紙を素材とした作品を配置し、夜間開館時には普段とは異なる空間を演出しました。また、洋紙を使った艾沢作品とは対照的に摺師の沼辺伸吉氏による和紙を使った一連の講習は日本の伝統文化を知ることのできる機会となりました。そのほか、パネル展示「紙の歴史を学ぼう」「紙すき体験」「紙のおもちゃであそぼう」など紙をテーマにした学びに加え、「縄文」に焦点を充てた「縄文文様をつけてみよう」「縄文バックヤードツアー」にも多くの方が参加され、期間中 3 日間でのべ 2,000 人を超える方に足を運んでいただきました。次年度以降も職員の専門性と想像力を駆使し、さらに人的ネットワークを活用し新たな取り組みを行って参りたいと考えています。

武田 正哉（主査・学芸員／歴史）



歌川広重展 展示風景



展示プログラム「Parer Trail」展示風景

企画展

歴史再発見 ～美々鹿肉缶詰工場展～



展示解説会

近年、^{ちまた}では野生の鳥獣を食べるジビエブームが起きていますが、明治時代の苦小牧に流行を先取りした(?)産業がありました。

明治11(1878)年、北海道の行政を担っていた開拓使によって植苗村美々(現:苦小牧市字美沢)に野生のエゾシカを原料にした缶詰工場がつくられました。エゾシカの不猟などが原因で事業は短命に終わったものの、まちの特性を活かしたユニークな取り組みでした。

2018年は工場が操業して140年の節目に当たることから、企画展「美々鹿肉缶詰工場展～よみがえるまぼろしの工場～」を同年12月15日から2019年3月3日にかけて開催し、従来あまり研究されていなかった謎多き缶詰工場について、歴史と考古の両面からいくつか検討を試みました。

まずは昭和49(1974)年に実施した工場跡での発掘調査で出土した遺物の再調査で

す。結果として、出土した「函館レンガ」は缶詰を煮沸する釜の一部であること、缶詰のふたの中心部にある白いさびが空気抜きのために開けた穴の跡であることなどが古文書の記述から確認できました。その一方でエゾシカの脚の骨ばかりが出土した理由は解明できず、課題が残りました。続いて、工場施設の全貌を明らかにするために模型を製作しました。1枚しか現存していない工場の写真と建設時の仕様書をもとに復元された精巧な工場模型は、今後常設展示室で展示する予定です。また、1879年のシドニー万国博覧会で美々の鹿肉缶詰が受賞した賞状類を苦小牧で初公開できたことも非常に大きな成果でした。

缶詰工場については明らかになっていないことがたくさんあります。今回の展示を足掛かりに、今後も調査を継続して皆さんに情報発信していきたいと思います。

佐藤 麻莉(学芸員/歴史)

企画展

「風の生涯と『勇払』」から 浮かび上がる工業都市の一起点



展示風景

当館では平成29年度、トヨタ自動車北海道株式会社の創業25周年を記念して、小説『風の生涯』の挿絵原画152点を含む洋画家・酒井信義の作品157点を受贈しました。

同小説の作者、堤清二(筆名・辻井喬)は、小説家・詩人であると同時に、セゾングループの代表を歴任したことで知られる実業家でもあります。企業家・水野成夫の生涯を描いた同小説は、物語の舞台の一つに苦小牧市内南東部に位置する勇払を選び、当市における産業史の1ページを重要な要素として盛り込んでいます。1998年12月から2000年4月にわたり日本経済新聞に連載された同小説は、その後、間もなく新潮社から初版が発行されました。

作中には、勇払に大日本再生紙株式会社(現・日本製紙株式会社北海道工場)を設立した水野をはじめ、同社の後身・国策パルプ工業株式会社の会長も務めた実業家・

南喜一、彼らの盟友でもあり、戦後、勇払に滞在した詩人・浅野晃、そして、苦小牧港建設にも貢献した政治家・篠田弘作ら当市ゆかりの人物も登場します。

酒井作品収蔵後、初披露の機会となった本展では、同小説の挿絵原画を展示構成の軸としながら、水野をモデルとする主人公をはじめ上記登場人物にも焦点を当て、勇払や主要人物の登場する場面のテキストを抜粋。さらに、水野の書籍や肉声が録音されたレコードをはじめ、彫刻家・吉田三郎と加藤顕清による南と篠田の肖像彫刻、生前、南が浅野の文学碑のために書いた解説文の原本や浅野の詩集・書簡類、苦小牧港の開港を記念して製作された篠田の映像資料など、作品・史料あわせて255点を展示し、芸術と歴史の両面から、勇払を起点とする当市の工業都市としての発展のありように注目する機会を設けました。

細矢 久人(主任学芸員/美術)

活動紹介 教育普及活動

2018年11月3日(土・祝)

無料観覧日

「あみゅー秋のサンクスデー」開催

毎年文化の日に実施している無料観覧日は、当館に親しんでいただくことを目的に企画しています。

本年度は当館学芸員による^{たが}鑑編みやクイズラリーの他、苦小牧縄文会による「わくわく縄文ランド」、美術館友

の会主催のロビーコンサート、藤沢レオさんによるレクチャー&ワークショップ等を実施し、館外の皆様のご協力のおかげで計945名の方にご参加いただきました。参加者アンケートでは「はじめて来館するきっかけになり、身近になった」との声も頂戴しました。今後も皆さんにとって身近で親しみが持てる「あみゅー」を目指して参ります。

沖津 かな(学芸員/自然史)



藤沢レオ氏のワークショップの様子

報告

平成30年度 事業記録

展示事業

《特別展》

■歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版
会期：平成 30 年 7 月 14 日（土）～9 月 17 日（月・祝）
入場者：5,923 名
協力：公益財団法人日動美術財団／日本美術商事株式会社
後援：苫小牧商工会議所／苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

- ①オープニングセレモニー
日：7 月 14 日（土）
参加者：58 名
- ②浮世絵手摺り実演会
日：7 月 28 日（土）
参加者：65 名
- ③体験 北斎を摺る
日：7 月 28 日（土）
参加者：17 名
- ④浮世絵技法講座
日：7 月 29 日（日）
参加者：54 名
※②～④の講師：沼辺伸吉氏（国伝統工芸士）
- ⑤ギャラリー・トーク（全 4 回）
参加者：143 名

《企画展》

■「風の生涯」と勇払
会期：平成 30 年 4 月 28 日（土）～7 月 1 日（日）
入場者：4,015 名
協力：トヨタ自動車北海道株式会社／一般財団法人セゾン現代美術館／神田画廊株式会社／日本製紙株式会社北海道工場／株式会社志方写真工芸社
後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

- ①感謝状贈呈式・内覧会
日：4 月 27 日（金）
参加者：62 名
- ②アーティスト・トーク
日：4 月 28 日（土）
講師：酒井信義氏（洋画家）
参加者：25 名
- ③ギャラリー・トーク（全 2 回）
参加者：29 名

■藤沢レオ Still Living
会期：平成 30 年 10 月 6 日（土）～12 月 2 日（日）
入場者：4,450 名
共催：公益財団法人北海道文化財団
協力：NPO 法人樽前 arty プラス／株式会社 ヨシダ／鴻野建設株式会社／株式会社 山脇克彦建築構造設計
後援：北海道／苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星／北海道新幹線×nittan 地域戦略会議

- ①オープニングセレモニー
日：平成 30 年 10 月 6 日（土）
参加者：67 名
- ②Port Collective：集積するイメージ
日：9 月 21 日（金）～23 日（日）
出品作家：大島慶太郎、大森記詩、佐竹真紀、中坪淳彦、坂東史樹、藤沢レオ、艾沢祥子×千歳科学技術大学ライトアート工房
会場：北海道教育大学アーツ＆スポーツ文化複合施設
主催：北海道教育大学岩見沢校／苫小牧市美術博物館
- ③アーティスト・トーク
日：平成 30 年 10 月 6 日（土）
講師：藤沢レオ氏
参加者：23 名
- ④ギャラリー・トーク
日：平成 30 年 11 月 25 日（日）
参加者：32 名
- ⑤藤沢レオを囲む夜の“社交会”
日：10 月 13 日（土）
講師：藤沢レオ氏、中坪淳彦氏
参加者：52 名

■美々鹿肉缶詰工場展 ～よみがえるまぼろしの工場～
会期：平成 30 年 12 月 15 日（土）～平成 31 年 3 月 3 日（日）
入場者：3,393 名
後援：北海道／苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星
協力：いしかり砂丘の風資料館／北広島市エコミュージアムセンター知新の駅／市立函館博物館／七飯町歴史館／北斗市郷土資料館／北海道大学附属図書館／北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園／北海道立文書館

- ①展示解説会（歴史編 5 回・考古編 4 回）
参加者：233 名
- ②缶詰製作体験（全 4 回）
参加者：81 名

《収蔵品展》

■野を舞う～廣田良二 蝶標本コレクション展
会期：平成 30 年 4 月 28 日（土）～7 月 1 日（日）
入場者：4,015 名

《特集展示》

■安田葉 WIND BIRDS
会期：平成 30 年 7 月 14 日（土）～9 月 24 日（月・祝）
入場者：6,308 名

■北川豊の静物画－生命充ちるところ
会期：平成 30 年 12 月 8 日（土）～平成 31 年 3 月 3 日（日）
入場者：3,484 名

《中庭展示》

■Vol.11 大森記詩－Training Day－
会期：平成 30 年 5 月 5 日（土・祝）～9 月 17 日（月・祝）
入場者：8,816 名

■藤沢レオ Still Living After「柱の研究」
会期：平成 30 年 12 月 8 日（土）～平成 31 年 3 月 3 日（日）
入場者：3,484 名

《普及事業》

■美術博物館大学講座
対象：一般 登録者数：127 名

- ①入学式・「食べる？守る？北海道の雷鳥～森のエプライショウと私たち～」
講師：藤巻裕蔵氏（帯広畜産大学 名誉教授）
日：6 月 2 日（土）
- ②「湿原と植物をめぐる 1 万 2 千年の物語」
講師：富士田裕子氏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 園長）
日：7 月 7 日（土）
- ③「文明開化 150 年 美術館のジレンマ」
講師：寺嶋弘道氏（本郷新記念札幌彫刻美術館 館長）
日：8 月 25 日（土）
- ④「花粉から探る北海道の植生史：15 万年」
講師：五十嵐八枝子氏（北方圏古環境研究室 主査・理学博士）
日：9 月 22 日（土）
- ⑤「北方から来た交易民 絹と毛皮とサントラン人」
講師：佐々木史郎氏（国立アイヌ民族博物館設立準備室 主幹）
日：10 月 27 日（土）
- ⑥「近代北海道におけるエゾシカ」
講師：山田伸一氏（北海道博物館 学芸主査）
日：11 月 24 日（土）
- ⑦「アメリカ大陸に渡った人類」
講師：平澤悠氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター 博士研究員）
日：12 月 22 日（土）
- ⑧「胆振地方における昭和前期の美術動向について」
講師：福田絵梨子（当館学芸員）
日：1 月 26 日（土）
- ⑨卒業式・「東蝦夷地産品コレクション」
講師：菅原慶郎氏（小樽市総合博物館 学芸員）
日：2 月 23 日（土）

■博物クラブ
対象：小中学生 登録者数：8 名

- ①入学式・生き物きろくにチャレンジⅠ
日：9 月 15 日（土）
- ②生き物きろくにチャレンジⅡ
日：11 月 10 日（土）
- ③ホッキ貝の貝輪作り
日：12 月 15 日（土）
- ④冬の遊び
日：1 月 19 日（土）
- ⑤まゆ人形作り・卒業式
日：2 月 16 日（土）



■子ども広報部びとこま

共催：NPO 法人樽前 arty プラス
対象：小中学生 登録者数：7 名

■古文書解説講座

対象：一般
初級入門編（全 5 回）参加者：115 名
中級編（全 2 回）参加者：53 名

■美術博物館祭 2018

日：7 月 27 日（金）～7 月 29 日（日）
参加者：1,161 名
協力：日本製紙株式会社北海道工場／
王子製紙株式会社苫小牧工場／
王子ネピア株式会社苫小牧工場

■ミュージアムラボ

対象：一般
①形で形を作ってみよう
ーブラモデルパーツのアサンプラージュ
講師：大森記詩氏（美術家）
日：5 月 5 日（土・祝） 参加者：27 名
②チョウの採集&標本づくり
講師：村井雅之氏
（ゆうふつ原野自然情報センター主宰）
日：5 月 26 日（土）、6 月 3 日（日）
参加者：21 名
③ 500 万年後の私「鉄たたくます」
講師：藤沢レオ氏（金属工芸家・彫刻家）
日：11 月 3 日（土・祝） 参加者：23 名
④水引に親しむ
日：12 月 23 日（日） 参加者：15 名

⑤エジシカの角でいろいろなものをつくってみよう
日：1 月 12 日（土）、1 月 26 日（土）
参加者：64 名
⑥絵画鑑賞会
共催：美術館友の会
日：2 月 10 日（日） 参加者：18 名

■無料開放日

①ゴーゴーミュージアム
日：5 月 5 日（土・祝）
参加者：1,001 名
④あみゅー秋のサンクスデー
日：11 月 3 日（土・祝）
参加者：945 名

■見学会・観察会

自然観察会「苫小牧の大地と生き物の物語」
対象：一般
日：10 月 14 日（日）
参加者：20 名

■郷土学習

期間：9 月～11 月
対象：市内小学校 23 校 3・4 年生
参加者：1,572 名

■教員のための博物館の日

共催：国立科学博物館／公益財団法人 日本博物館協会
後援：文部科学省
対象：周辺地域の教員等
日：8 月 8 日（水）
参加者：49 名

■職場体験

期間：10 月 16 日（火）～25 日（木）
対象：市内中学校 6 校の中学生
参加者：33 名

■社会科自由研究発表会

共催：市教育研究会社会科部会
日：9 月 29 日（土）
参加者：46 名

■博物館学芸員実習生受入

日：8 月 30 日（木）～9 月 11 日（火）
実習生：1 名

■ボランティア研修会（全 7 回）

登録者数：38 名

■総合学習・出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

日：随時
実施：16 件（平成 31 年度 2 月末現在）

※各事業の入場者・参加者数は平成 31 年 3 月 31 日現在のものとする。
※展示事業一覧は、企画展名、開期、入場者数、関連イベントを記載。
※明記の無い事業の主催は全て当館（苫小牧市、苫小牧市教育委員会）による。
※協力等は該当事業のみ記載。
※講師未記載は全て当館学芸員が担当。

平成30 年春季 展示室の貸出し事業

	展示内容	申請者	期間	来場者数 (主催者集計)	展示室
1	苫小牧美術協会春季展	苫小牧美術協会	平成30年4月4日 ～4月10日	794人	第1・2・3

当館では、市内で創作活動の実績のある個人や団体等に発表の場を提供することを目的として、毎年春季に1回、展示室の貸出し事業を実施しています。

小泉 雅生（主査）

職員紹介

苫小牧市美術博物館と勇武津資料館では館長以下、様々な専門分野を持つ学芸員、事務を担う職員が協力して、調査研究、資料の収集・保管、展示、教育普及の事業に励んでいます。わからないこと、聞いてみたいことなどがありましたら、ぜひ気軽に私たちにお声かけください。

①出身地 ②専門分野
③研究テーマ



◆苫小牧市美術博物館◆

館長
五十嵐 充（いがらし みつる）
①苫小牧市

ー学芸員ー

主査
武田 正哉（たけだ まさちか）
①苫小牧市 ②歴史・民俗
③近世・近代の苫小牧地方の歴史遺産と歴史資料

主任学芸員
細矢 久人（ほそや ひさと）

①網走市 ②美術
③苫小牧および北日本における近現代美術

江崎 逸郎（えざき いてつろう）
①福岡県 ②自然史（鳥類）
③樽前山及び勇払原野一帯の生物相とその変遷

福田 絵梨子（ふくだ えりこ）
①札幌市 ②美術
③日本近現代美術、美術館教育

岩波 連（いわなみ れん）
①東京都 ②考古
③動物考古学

沖津 かな（おきつ かな）
①苫小牧市 ②自然史
③苫小牧の自然

佐藤 麻莉（さとう まり）
①札幌市 ②歴史
③日本近世史、北方史

ー事務職員ー

主査
小泉 雅生（こいずみ まさき）
①苫小牧市

主事
吉田 由恵（よしだ よしえ）
①苫小牧市

◆勇武津資料館◆

学芸員
赤石 慎三（あかいし しんぞう）
①千歳市 ②考古
③苫小牧の縄文時代

臨時職員
二階堂 啓也（にかいどう けいや）
①苫小牧市 ②歴史
③八王子千人同心と家紋

※ 2019 年 3 月現在

企画展

「藤沢レオ—Still Living!— 木棒を立てるという行為から始まる『柱の物語』」



藤沢レオ《場の彫刻Ⅶ》2018



藤沢レオ《不在の森》2018



藤沢レオ《柱の研究》2018



藤沢レオ《場の彫刻（大柱）》2018

苫小牧市樽前地区を拠点に活動を展開する藤沢レオ（1974 - ）は、日常に潜在する繊細な感情、そして自然の摂理などを視覚的に抽出する独自の表現によって評価を得ている金属工芸家・彫刻家です。藤沢の苫小牧市文化奨励賞受賞およびNPO 法人樽前arty プラスとしての北海道文化奨励賞受賞を記念し開催した本展では、2014 年以降、藤沢が追求しているテーマである〈場の彫刻〉シリーズを軸に一連のインスタレーションを紹介しました。

藤沢の作品において繰り返し登場するモチーフである「柱」は、場の変容ないし発生を促す起点として位置づけられます。本展においても、企画展示室の外壁に立てかけられた《場の彫刻（大柱）》をはじめ多くの柱のイメージが見受けられました。その建立を「人類の祖先がはじめて大地に棒切れを建てた瞬間の輝かしさ」の象徴として解釈する藤沢は、柱を立てるという行為により世界を切り開いた精神が、やがて本能として浸透し普遍化していく過程について「現世界が拡張していく物語」として捉え、それを本展の通奏低音を成すコンセプトとして規定しています。

ブラックライトを照らすことで、光線と化した無数の糸が織り成す幻想的な光景が印象深い《不在の森》の空間が、原初の森を抜け出て柱を立てるというヒトの行為の前段階を示唆しているように、本展で展示された作品群は、それぞれの空間と藤沢自身の紡ぐ「柱の物語」とが呼応する舞台のような役割を果たしていました。光の演出や音響と融合しながら独創的な作品世界を築きあげていく展示は好評を博しました。

見る者がそこへ能動的かつ受動的に参加し、一体となって思考することで成立する本展は、めまぐるしく移り変わる世界において私たち人類がいかにして生きるべきなのかという根源的な問いを内包するものであり、果たして現代人や現代社会のありようについて再考を促す「場」となったのではないのでしょうか。

細矢 久人（主任学芸員／美術）

特集展示

「安田葉 WIND BIRDS」がひらく ミュージアムの新たな可能性

特集展示「安田葉 WIND BIRDS」では、当館所蔵の剥製資料や絵画作品と神奈川県海老名市在住の美術作家・安田葉（1988 - ）の作品を、一つの空間の中で構成する展示を行いました。郷土に深く根差した資料や作品とアーティストの視点が交わるところに、まだ見ぬ苫小牧の姿との出会いがありました。

本展のタイトルである「WIND BIRDS」には、樽前山麓や勇払原野を訪れる鳥たちの姿と苫小牧の地を眺めてきた人々の姿が重ねられています。展示会の準備に際し何度も苫小牧を訪れ制作された作品は、まさしく安田自身の鳥のような軽やかな眼差しがあふれるものでした。展示室の壁面に大きく映し出された映像作品は、馴染みある地元の景色から神秘的な雰囲気漂う沼のある森へと観る者を誘います。ここでは、樽前山麓の奥で沼や森の手入れをし、自然への造詣と知恵に満ちた「文子さん」の丁寧な暮らしが描き出されていました。苫小牧の植物や鳥の巣が用いられた立体作品は映像作品と共に展示空間を彩り、作品と資料の境界は一つの空間の中でゆるやかに溶け合っていくようでした。

苫小牧で制作されたこうした作品と、展示空間の中にちりばめられた鳥類の剥製資料や地元の画家たちが描く風景との響きあいは、ミュージアムという空間の特殊性に対する問いかけであるとともに、新たな可能性をひらくものでもあったように思います。

福田 絵梨子（学芸員／美術）



展示風景



活動紹介 調査研究活動

鳥が集う出光カルチャーパーク

苫小牧市民の憩いの場である出光カルチャーパーク（以下、出光CP）。実は一年を通して、さまざまな鳥が集う場所であることはご存知でしょうか？

春はシジュウカラなど小鳥のさえずりが響き、初夏にはコムクドリの大群が現れ、冬にはツグミやシメがナナカマドの実をついばむ光景が見られます。近年は鳥を観察・撮影する人の姿も目立つなど、鳥を見る良い場所であることは知られているようです。しかし、いつどんな鳥が見られるというこ

とを、まとめた資料はほとんどありませんでした。

そこで2018年4月から2019年2月まで、出光CPで見られた鳥を観察し、その種類を調べました。その結果、観察された種類は約60種に上りました。特に春と秋に種数が増え、都市部では珍しい種類も見られることがわかりました。春と秋は鳥の渡り（移動）の季節であるため多くの種類が出光CPを通過しているのでしょう。

近年、生き物のすみかやふれあいの場所として、都市の緑はその価値が見直されています。当館では今後も、出光CPの価値を測る基礎データとして、鳥に限らず生き物の情報を集めていきたいと考えています。

今回の調査結果は2019年3月発行の紀要第5号に掲載予定です。また、観察した情報は美術博物館1階の情報コーナーに掲示しています。ぜひご覧ください。

江崎 逸郎（学芸員／自然史）



シジュウカラ *Parus minor minor*

埋文センター活動報告

苫小牧市埋蔵文化財調査センターでは今年度2か所の遺跡の発掘調査と苫東での試掘調査を行いました。発掘調査は勇振1遺跡を5～6月、覚生1遺跡を7～8月に行いました。雨天の日が多く、晴れたと思えば酷暑となるなど、なかなか天候に恵まれませんでした。多くの石器が見つかるといった成果もありました。また、苫東での試掘調査では新たに4か所の遺跡が発見されました。これで市内の遺跡は295か所となりました。その他市内では北海道埋蔵文化財センターが苫小牧中央イ

ンター建設にかかる発掘調査を高丘地区で行いました。

文化財保護法では建物や道路を建設する際にそこが埋蔵文化財包蔵地（いわゆる遺跡）かどうか調査し、そこが遺跡であれば工事の前に発掘調査をすることが定められています。苫小牧市埋蔵文化財調査センターではこれに基づいて、市内のこれまで調査されていない地点を遺跡かどうか確かめる試掘調査を毎年実施しており、遺跡に登録された場所もしくはその近辺で開発行為がある場合は発掘調査を実施しています。樽前山の火山灰の下には数千年前の人々が残した土器や石器がまだま

だ多く眠っていて、毎年のように新発見があります。

岩波 連（学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任）



勇振1遺跡発掘風景

勇武津資料館通信

当館では、ふるさと歴史講座・ふるさと探訪・生活体験教室・機織り体験教室など、16項目の事業を実施しています。そのほかにも出前講座など、一般の団体、小・中学校も含め随時に依頼のある体験教室なども行っています。さらに2018年度から勇払地区（勇払小と勇払中）がコミュニティー・スクール（CS）事業のモデル地区に指定されたため、小・中学校合同の「藍染め体験教室」も実施しました。以下に30年度に実施した主な行事を紹介したいと思います。

ふるさと歴史講座は「勇払を描いた

画家たち」（1月）、「浅野晃と勇払の5年間」（2月）、「環壕の土音がひびく頃」（3月）の表題で3回開催されました。

ふるさと探訪は、「勇払の植物観察」（7月）、「勇払の歴史散歩」（9月）、「勇払海岸の漂着物調査」（10月）の3回が開催され、「勇払の歴史散歩」では航空写真や地図で確認した旧勇払川の河口を辿ってみました。今後の調査が期待されます。

生活体験教室は、8回実施しました。相変わらず圧倒的に参加が多いのは「藍染めに挑戦」で42名の参加をみました。次いで「くん製づくりに挑戦」も人気で、33名でした。

機織体験教室は、例年、携帯機織の台数に限定した定員7名で募集していましたが、新年度からは織機を増やして10名の定員で募集したいと思っています。

二階堂 啓也（勇武津資料館）



はじめての裂織

館長コラムNO.6

複合施設あみゅーの 2018年度展示回顧

市民に定着した感のある博物と美術の複合施設、苫小牧市美術博物館（愛称あみゅー）の2018年度の企画展、特別展を振り返ってみたいと思います。

「『風の生涯』と勇弘」は、新聞小説の挿絵原画、勇弘の製紙工場の創業や苫小牧港の開港に携わった人物などを絡めた絵画、映像、彫刻、歴史資料の展示構成で、「あみゅー」の面目躍如たる企画といえます。

現代美術の展示会としては異例の4,450人が足を運んだ「藤沢レオーStill Living」は、反響も多く、地元作家藤沢氏の存在感を示してくれました。

「安田葉 WIND BIRDS」は、海老名市出身作家が苫小牧の自然や風景を外からの目で制作した映像は興味深く、長年住む町が違う町に見えました。

「美々鹿肉缶詰工場展」は、明治期に開拓使が美々に設置した缶詰工場の歴史や先史時代から続く地域と鹿との関わり

を考古、歴史の両面から探り、好評を博しました。

最後に、有料の特別展で過去最多の6,000人に迫る来館者を集めた「歌川広重 二つの東海道五拾三次」は、浮世絵人気の高さを証明しました。

2019年度以降も、地元の自然・歴史・文化芸術に関わる展示や教育普及事業を通じて、多くの市民に親しまれ、楽しんでいただける施設となるよう、「あみゅー」職員一同、奮闘努力してまいります。

五十嵐 充（館長）

2019年度 展示会情報

○観覧料

一般 300 円／大学生・高校生 200 円／
中学生以下無料
※団体割引、免除規定があります
※特別展（年 1 回）の観覧料はその都度定めます

○年間パスポート

一般 900 円／大学生・高校生 600 円
※特別展のみ特別観覧料から一般 300 円、
大学生・高校生 200 円を引いた料金がかかります

特別展

■第一洋食店の 100 年と苫小牧
7 月 13 日（土）～9 月 16 日（月・祝）

中庭展示

■第一期 Vol.12 半谷学
4 月 27 日（土）～9 月 16 日（月・祝）

■第二期 Vol.13 坂東史樹
10 月 5 日（土）～11 月 24 日（日）

収蔵品展

■美術収蔵品展（仮称）
12 月 7 日（土）～1 月 19 日（日）

企画展

■とまこまい考古コレクションー縄文からトーチカまでー

4 月 27 日（土）～6 月 23 日（日）

■NITTAN ART FILE 3：内なる旅～モノに宿された"記憶"（仮称）
10 月 5 日（土）～11 月 24 日（日）

■浅野武彦の木版画の世界

12 月 7 日（土）～1 月 19 日（日）

■大正・昭和の鳥瞰図と空から見た昭和30年代の苫小牧
2 月 8 日（土）～3 月 29 日（日）

特集展示

■植物細時記ー身近な木々の一年を辿るー
4 月 27 日（土）～6 月 23 日（日）

■映像展示（仮称）
2 月 8 日（土）～3 月 29 日（日）

美術博物館祭 2019

7 月 26 日（金）～28 日（日）

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

収蔵資料紹介 展示室から

ハート型浅鉢

展示室の一角にハートのような形をした土器があるのをご存知ですか？この土器はタブコブ遺跡という国道 36 号線の植苗橋の向かいにある台地の上から出土しました。今からおおよそ 2500 年前の縄文時代晩期の土器です。パッテンのようなキザミ文

様を入れたり、縄を押し付けたり転がしたりと様々な文様が施されています。注ぎ口のように思えるハートのとがった部分に孔があけられているため、何か液体を注ぎだすのが難しそうな点が面白いです。皆さんはこの土器が何故ハートのような形をしていて、どのように使われたと思いますか？

岩波 連（学芸員／考古）



表紙の写真

ゴマシジミ（撮影：廣田良二）

昨年の収蔵品展では、2016 年にご遺族から寄贈いただいた故・廣田良二氏のチョウの標本と生態写真を展示しました。標本や写真は昔の自然を今に伝える大切な証拠です。ゴマシジミは外来植物の侵入で食草が減った影響で、近年苫小牧から姿を消しつつあります。廣田氏の愛した苫小牧の自然がどのように変化しているのか、標本と写真は教えてくれるのです。

江崎 逸郎（学芸員／自然史）

■編集後記

今号では職員紹介を掲載しましたが、ここに紹介しきれなかったスタッフ（受付、管理、清掃など）も多く働いています。今年も職員一同、みなさまのご来館を心よりお待ちしております！

江崎 逸郎（学芸員／自然史）



苫小牧市
美術博物館だより

平成 31 年 3 月 31 日発行・第 6 号

編集・発行：苫小牧市美術博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町 3 丁目 9-7

TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで） 休館日：毎週月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始